

「新しい横浜の指針づくり」 新総合計画の策定

西暦二〇一〇年、横浜市民の生活はどのような
ようになっているのだろうか。

通勤はもっと楽になっているだろうか。
寝たきりの老人が増え、その介護が社会問
題になっていないだろうか。子どもたちは、
学校でどんな教育を受けているのか。スポ
ーツや文化施設はいつでも借りることがで
きるだろうか。大切な緑は残されているの
だろうか。

横浜市新総合計画の策定は、通勤、買い
物、福祉、医療、健康、住宅、道路など、
市民生活のあらゆる分野について、このよ
うに具体的な二〇一〇年の市民生活の姿を
描くことから始まった。

未来を描くのは、いうまでもなく市民一
人ひとりである。アンケートやヒアリング
調査などを通じて、多数の市民から市政へ
の注文や期待が「市民生活へのニーズ」と
して寄せられた。市民のおよそ一割を対象
とした「三万人アンケート」も、そうした
活動のひとつである。

さらに、市民の参加による区民の集いで、
二〇一〇年頃の市民生活のあり方について

話し合ってもらったり、シンポジウムでは
各分野の専門家をまじえて、未来社会の姿
を討議した。また、日常業務の中でも、市
民の描く未来像を聴き取った。

こうして集まった「市民生活の場面」を
これから期待されている市民生活像として
とりまとめ、それを実現するために、まず
市民・行政の役割を明確にしなが長期的
な目標をわかりやすく設定し、次にその長
期目標を達成するための施策の基本的方向
を明らかにするという手法で、現在、新総
合計画が策定されている。

例えば、「上大岡に本社が移転して、快
適な通勤ができる」という生活像を実現す
るために、「横浜都心部を通過しないで、
市内を快適に行き来できるような鉄道網を
実現する」という長期目標が設定され、そ
れを達成するための交通体系の整備の方向
が検討される。このような手順で、あくま
で具体的な市民生活をイメージした課題設
定がなされ、その解決策が次々に立てられ
ていくのである。

この「新総合計画」は、二〇一〇年まで



2010年の横浜の姿とは



市民一人ひとりの思いが、明日の横浜につながっていく

の市政運営の基本方針となり、横浜市はこ
の計画に沿って運営されることになる。

ここ数年、国際社会は大きくゆれ動き、
市民生活を取りまく諸条件も大幅に変化し
ている。環境問題は地球的規模の課題とな
り、高齢化の進行も著しい。一方、日本経
済は安定成長の時代を迎え、労働時間の短
縮、学校五日制への移行などにより、人々
の豊かでゆとりある生活への欲求はますます
高まっている。

こうした社会環境の変化の中で、市政の
新たな取り組みや質的転換が求められる課
題も多くなり、広範な市民の参加を得て、
新しい指針づくりをする必要が出てきた。
そこで横浜市では、平成元年に見直された
「よこはま21世紀プラン」の目標年次であ
る二〇〇〇年が近づいてきたこともあって、
新たに、さらに長期を見通した方針を設定
するために、この「新総合計画」を進める
ことにしたのだ。

計画策定のための作業は、平成四年七月
に始まった。以後、平成五年夏には長期ビ
ジョンの原案をまとめ、年内には確定とい
う段取りだ。これを受け、五年春から具体
的な事業計画の策定にとりかかり、こちら
は六年度をめどにとりまとめる予定となっ
ている。

事業計画は、二〇一〇年における主要事
業の目標を示す「基本計画」、基本計画に
もとづいて五カ年の主要事業の目標を示す
「五カ年計画」、区ごとの基本計画を示す
「区別計画」の二本柱で構成され、長期に
わたる未来のまちづくりの姿と当面取り組
むべき課題など、全市的、広域的な位置づ
けから地域の姿まで、立体的に概観できる
ものとなる。

市民の描く夢やアイデアを出発点とする
新総合計画は、豊かで安心して暮らせる生
活都市・横浜を実現するための指針として、
いま徐々にその姿をあらわしつつある。